

奥山 大樹、我が家の二男坊です。男の子か女の子かは、生まれてからの楽しみということで、名前も両方を考えていました。女の子の名前は早いうちから決まっていたのですが、男の子の名前は十も二十も候補があり、決められずにいました。大樹という名前は、その中でも一番最後に考えたものでした。大樹という名には、大地にしっかりと根を張り、大きく逞しく、そして多くの人が集まってくる、そんな大きな樹のように育てて欲しいという願いが込めてあります。他に考えた名前にも、それぞれ意味は有りましたが、どうしてこの名前になったのかというと、いざ出産予定日通りに生まれてきた子は、助産婦さんでさえ「あらっ、大きなおなかだった割には、小さな赤ちゃんね」とびっくりした程の2,530グラムと少々小さめでした。



分娩台の上で、生まれ出たばかりの我が子を見た瞬間に私の中では「こんなに小さく生まれたのだから、大きく育つように大樹しかない」と決まっていた。分娩室に入ってきた主人に「大樹にしよう」といい、その時点で即決定でした。その後、病室に戻ると出産前には気づかずにいたのですが、窓の外に大きな木が立っていました。偶然というのか、何というのか、少し不思議な思いでしたが、退院の日に、その木をバックに写真を撮ったのは言うまでもありません。

生まれた時は小さかったこの子も、名前のおかげかその後の体重の増加には目を見張るものがあり、担当の先生も大変驚いておられました。

あれから三年半、今では、とてもわんぱくで、にぎやかで、そして、とても優しい子に育っています。(父母)

私の名前は「大樹」と書いて、「だいじゅ」と読みます。この名前に関するエピソードは、まずこの読み方についてです。自らが名前を人に教えられるようになってから、早くは保育園の頃からでしょうか。一度もまともに「だいじゅ」と呼ばれた記憶がないのです。そして必ずといっていいほど最初に間違われるのが「たいき」でした。ですから小さい頃は、この「たいき」という響きがいやでした。なにか今回の企画に反しているようですが、遠い昔の話ですから気にしないで下さい。



もちろん誰もがおどろく名前ですから、当然その由来を父親に聞いた事があります。父が言う事には、まず大樹の「樹」の字が好きで、昔の学者で「中江藤樹」という人がおられ、この樹という響きが気に入っていたので、これに大きく育てとの意味で「大樹」としたとの事でした。

このありがたい名前が命名された、33年前には、周りからはかなり反対されたようですが、本人は気に入っています。確かに最初は変な名前と笑われたりしましたが、一度覚えると忘れられない名前です。それに、必ず字と読みを聞かれるので、人より長く自己紹介ができました。さらに三つ下の弟の名前を出すと、効果倍増です。ちなみに弟の名前は「洋樹」と書いて、「ようじゅ」と読みます。

私は七月末に男の子を授かりました。当然命名には悩みましたが、印象強い名前という事で「雷斗(らいと)」と名付けました。

名前は人が死ぬまでかかげていく看板です。その看板を立派にするもしないもその人次第だと思います。今自分が名前を付ける立場になった時、改めて自分の看板の重みを実感しています。

「大樹のようであれ。」これが私たちの願いです。

大地にしっかり根をはる大樹であれ。

みんなをやさしく見守る大樹であれ。

雨・風に負けない強い大樹であれ。

そして色とりどりの花を咲かせ、みんなを楽しませる大樹であれ。

心も体も「大樹」のようにたくましく育ってほしいと名付けた大樹(ひろき)も、もう3歳になります。今では、弟思いのやさしいお兄ちゃん、すくすく元気に育っています。

将来どんな花を咲かせるのかたのしみにしつつ、大樹の成長を見守りたいと思っています。(父)



## 大阪府泉南市の大樹さん

特別住民番号1458

平成7年2月24日。私達にとって、俗に言う「目に入れても痛くない」宝物が誕生しました。多少、出産にはてこずったものの体重3,220gの元気な男の子が生まれてくる予定でした。

それは、出産三日後から始まったのです。元気だったはずの子が手の甲や足の裏に注射の後、免疫力低下による感染症、黄疸も紫外線治療では治まらない、陰のう水腫とまあ病名をあげれば数知れずの状態でした。病院から退院した後も治療ばかりで、何度も何度も「もういやあ！」と子育てを放棄しかけたことだろうか。何度、泣いた事でしょう。

そんな宝物も今では4歳を過ぎ、今度は子育てにてこずらされてますが元気に幼稚園に通っています。小さかった頃の事が嘘のように、体はとても大きく、年少のクラスでは一番大きいそうです。

そうです。私達が願った事。体が弱かったので大きな木のように大地に根づく大木のようになれ！でした。字は大地の大と木は大木って感じのする樹で大樹(ひろき)と名付けたのです。

今では誰もが子供を見て「名前の通りやね！」と言われる事が私達にとっての喜びです。(父)



## 東京都世田谷区の大樹さん

特別住民番号1459

「大樹っていい名前だよな？」。二人目の出産が近づいた頃、どちらかともなく出た言葉でした。

当時コミック誌に連載されていたマンガの主人公の名前で、「大樹」と書いて「タイキ」と読ませます。大樹町の方々にとっては当然でしょうが、私達にとっては珍しい読み方に思えました。

そのマンガは、柔道でオリンピックを目指す青年が主人公で、柔道の実力はもちろんのこと、その青く澄んだ大空のような、そして無邪気な心を持った魅力ある主人公です。柔道に励み、そして苦しみ、人を愛し、悩み、悲しみ、いろいろなことを経験しながら成長していくさわやかな姿が印象的でした。その主人公「大樹」のように、そして本物の大きな樹のように、空に向かって広く高く伸びやかに育って欲しいという気持で、漢字も読み方も同じに、「大樹(タイキ)」と命名することに決めました。

平成8年11月9日夕方、無事誕生し、「タイキ」という呼び方にも慣れてきた頃、主人の母が大樹町の特別住民募集の新聞記事を送ってくれて、はじめて大樹町の名を知り、そして特別住民とさせていただいたことで、田舎が一つ増えたような嬉しい気分になりました。

我が子の人生はまだ始まったばかり。この先いろいろな出会いがあるでしょうが、その出会いの第一歩として、遠く北海道に自分と同じ名前の町があることを、もう少し大きくなったら話してあげようと思います。(父)



## 沖縄県平良市の大樹さん

特別住民番号1461

あれは息子が生まれる前の年(昭和57年)の暮れか、その年(昭和58年)の始め頃か定かではありませんが、テレビのチャンネルを切り換えた時、画面に「大樹駅」の文字を見つけました。日頃から男の子なら逞しくなれるような名前にしようと思っていましたので、すぐに主人と二人で「大樹」に決めました。



“大木のように心も体も逞しく”が命名の由来です。

北海道に「大樹」という町があることを初めて知り、地図でも確認致しました。息子をはじめ家族みんなでいつか行ってみたい、と話しています。

現在、息子は高校二年生です。名前のおり病気で学校を休むこともなく、小学校から続けている好きなサッカー部に入り元気にのびのびとやっています。むずかしい年頃ですが、私にもそういう時代はありましたので息子を理解しながら気長に見守ってやりたいと思っています。

命名のきっかけになった「大樹町」が、今後ますます御発展されますように遠い沖縄からお祈り申し上げます。(母)

## 群馬県伊勢崎市の大樹さん

特別住民番号1463

大樹という名前は、パパがつけてくれました。パパは色々な本を読み考えました。男の子だから、大樹。大きな木のように、おおらかで、たくましく、強く、大きな枝のように手を広げ、人々と仲良く助け合いながら育ててほしいです。名前を聞いて、イメージしたのは、北海道の広い草原でした。大樹が大きくなったら大樹町に連れて行きたいなあ。



いつまでも、やさしい、大ちゃん、素直な大ちゃんてください。(母より)

## 福島県福島市の大樹さん

特別住民番号1469

僕は、大樹と書いて“おおき”と読みます。なかなか正しく読んでもらえないのが残念ですが、僕はとても気に入っています。

僕が生まれた時、“大きくゆったりとした人間になってほしい”という父母の願いを受けて、“大樹”という名をつけてもらいました。読み方については、名字が佐藤なのでいろいろ悩んでいたところ、テレビで放映された、国語学者の林大(はやしおおき)氏を見て、“おおき”という読み方にしたそうです。



僕がこの大樹町を知ったのは、中学一年のある日、昼食のチーズの製造元を、何気なく見てみると、何と自分と同じ漢字の町名が書いてあるではありませんか。驚いてクラスの何人かに話すとみんなも知らなかったらしくびっくりしていました。まさか自分と同じ漢字の町があるなんて何かとても不思議な感じがしました。

それから何日、何週間、何カ月かして父が「全国の大樹さん募集」の案内書を持ってきたので早速応募してもらいました。

これが僕の名前の由来と大樹町との出会いです。

北海道大樹町。まだ一度も訪れたことはありませんが、父母によると雄大な大地が限りなく広がっているとのこと。いつの日か訪れてみたいと思っています。

今、僕は名前通りに父や母の願った様にゆったりと育っています。

北海道の大地に息づく大樹の様になりたいなと思いながら。

大樹命名のエピソードを一筆啓上致します。当家の大樹とは地球の環境を守ってほしいと思い命名しました。たくさん葉を繁らし、地球上の生き物にたくさんの酸素を供給し、大雨の時は大地の笠となり、暴風時は風よけになり、又大暑の時は日影を作る様な人の為に成れる人間に成長してほしいと思う願を込めて大樹と命名致しました。



命名時のエピソードとして思い出しますと、大樹という名は「だいき」とつけるか「たいき」とつけるかみんなで悩んで、たいきの方がにこらずに、いいひびきがあり、とても感じがいいので、たいきというよみ名で大樹と命名しました。おかげで、今では小学二年生になりましたが、やんちゃですが、みんなからもだれからも親しまれ、「たいちゃん、たいちゃん」とよばれ、すくすく成長しております。本人は、大樹町が北海道にあるということをととてもよろこんでおり、興味をもっております。大樹町の特別住民になれたことをすごいといっってよろこんでます。(父)

平成9年1月9日、午後2時9分、3,356gで大樹は生まれた。助産婦の「りっぱな男の子ですよ。」という声は、聞こえたものの産声はなかなか聞こえてこない…。数分後初めて我が子の泣き声を耳にする。「早く抱きしめたい」と待っていたが、私の前に来たのは保育器に入った我が子だった。呆然とする私の横では、我が子を助けようとする大勢の人達がいた。小さな小さな我が子も必死にがんばっていた。



その様子を見てずっと思っていた名前“大樹”と名付けることを確信した。

大樹とは、大きな樹。大きな樹となるには、たくさんの自然の恵みが与えられ、あらゆる困難にも負けず大きな樹へと育っていく。やがて森林となり多くの人々に安らぎを与える。

我が子“大樹”も、生まれた時から多くの方々に守られ、支えられたお陰で、今では何一つ障害もなく名前のごとく大きく元気でたくましく、そして優しい子へと育っている。

まだわんぱくざかりの二歳にも拘らず、これほどまでも名前等に等しく育っている子は、いないのではないかと思う。

そして、我が子が成長し成人を迎えてからも、多くの人々に安らぎと優しさを与えられるような、心穏やかな人に育って欲しいと願う。